

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

小牧實繁譯述

沿海漁撈民間に於ける人口の分布は、狩獵民人口の分布とは全く趣を異にした形を以て現はれる。即ち狩獵民間に於てはその生活資源の許す限りに於ては集合 (Agglomeration) が益々濃厚となる傾向を有するに對して、沿海漁撈民間に於ては集合が、出來得る限り稀薄になる傾向を有するのである。

集合の傾向は第一には社交性の慾求、第二には武器を以てする鬭争の習性によつて容易に説明し得る所であるが、漁撈民間に於ては此の求心力の二つの中一つは極めて薄弱であるか若しくは全然存在しない。即ち彼等は本質的に全く平和な性格を有するからで、之れ一に彼等が餘り危険ならざる漁具漁器しか使用しないのによることと思はれる。然しながら漁撈人と雖も

人間であり、社交性を有する以上、その社交性の慾求は彼等をして出來得る限り多數集合せしむべきこと明かである。然るに事實彼等が餘り多數には集合しないとするとするならば、其の原因は那邊に存するであらうか、その集合の慾求を妨げる力は何であらうか。之れは後述する所によつて追々明かとなるであらう。

擬此所に沿海漁撈民といふは主として海の幸を以て生活するが、併しながら海岸から餘り遠くには出漁せず、日歸りを以て陸上に歸着し得る程度以上の距離には出航しない漁撈を指すのであるが、文明人間に遠洋漁業と競争的又は共存的に存在する沿海漁撈に従事する漁民は暫く除外する。

事實に於いて沿海漁撈のみを以て生活する人

民の存在するのは多くは未開人若しくは半開人間に於いてである。即ち彼等の存在するは例へばオセアニア、チエラ・デル・フエゴ (Tierra del fuego)、英領ロロンビア、アラスカ、極洋地方等である。

併し一概に沿海漁撈民とは云ふものの勿論之れには若干の種類が存在する。最も單純なるものは普通海濱に沿つて放浪し小海棲動物のみを集めるに過ぎないものより、屢々定着居住して海棲動物の大なる種類に屬するものを攻撃捕獲するものに至るまで若干の種類が存在するのである。以下先づ最も簡單なるものから順次複雑なるものへと其の各種類に就いて述べて行かう。

一、全年を通じて放浪する漁撈民

全年中放浪し冬籠りの必要を有しない漁撈民であつて、彼等は勿論氷洋地方には存在し得ず、他の地方に存在する。而して其の獨木舟の大きさが、之れを製作し之れを使用する單位一群の

大いさを決定するのである。

此の種類に屬するものにヤガン人 (Yaganes) がある。彼等はチエラ・デル・フエゴの南端に居住するものでフエギアン (Fuegian) とも呼ばれるが、其の地の氣候は全く海洋的で溫和であるから、食物の缺乏を來すことは一年中三・四日、即ち降雪を見る時丈けである。漁撈は女子の仕事となつて居るが、それは干潮時一種の籠を以て貝類を掻き集め、又小さき熊手の類を以て雲丹を採り、釣針を以て小魚を釣るに過ぎないのである。雲丹を集め魚を釣るには五人若しくは六人乗の小獨木舟を用ひるのであるが、之の獨木舟は男子が製作することになつて居る。實際に於いて其の漁撈人連は二乃至三世帯即ち一人の親父とその息子の二乃至三世帯よりなり人口にして十人内外を算するに過ぎない。而して其の野營は五人乃至六人入りの一箇の小屋と他に獨身者の入るべき一小屋とよりなる。

此の一群は數日間同一地點に於いて食物を涉

獵した後次の地點に移るのであるが、若し斯かる群が數群相落合ふが如きことがあれば彼等は一時的部落を構成することがあるが、此の部落なるものが唯一軒の大なる小屋から成立するところがあり、而してその人口は三〇人乃至四〇人時としては五〇人に達することがある。

併しながら、海は無盡藏の寶庫であるには相違ないが彼等が海濱近くにのみ止るならば、漁獲は次第に減少し、再びストックの生ずるまでは暫く待機しなければならぬこととなる。従つて若し長く一所に止らんと欲するならば勢、遠隔にまで食物の涉獵に出掛けなければならぬと云ふ不便が生ずる。斯かる不便を避けるためには比較的大なる部落は久しからずして解消を餘義なくせられるのである。

併しながら彼等は參々伍々放浪して相互關聯なき浮浪の徒ではない。矢張部族に統一せられて居る。唯生活資料獲得の便宜上散居放浪するのみである。一部族は大體海中の島嶼若しくは

海岸の一部分を占領し、三〇〇人乃至四〇〇人許の人口を包括して居る。

此の種類に屬するものに又たアンダマン島 (Andaman) のミンコピース人 (Minicopies) なるものがある。彼等は二重の勞働團を有する。即ち男子のそれと女子のそれとである。女子の仕事は甲殻類及び貝類を海濱に採集することであり、男子の仕事は二人乃至三人乗の獨木舟を製作し、之れに乗つて珊瑚堡礁内の水靜かな所で弓を以て海馬 (dugong) を射、又鰐を以て龜を刺しこれによつて生活資料を獲るにある。

此の一群の人口は女子及び子供を合し大體三〇乃至四〇人に上る。最少二〇人から最多五〇人の間を上下するとも云はれる。而して此の一群が絶對的共產制の下に生活するのは頗る興味ある事實である。

彼等は同一箇所に一兩日止るに過ぎないこともあれば數週間に亘つて止ることもあり、場合により一箇所の滞在期間は一定しないが、何れ

にしても其の地の資源が盡されば此所を去り三箇月以内に於ては復其の地に歸らぬのを常とする。

彼等も又部族に統制せられ、一部族は局限せられた領地を有し其の中に一五〇乃至二〇〇人許の人口を有して居る。

尙此の類に屬するもので上述のものより更に簡單なる生活をなすものにバ・クアンド及びバ・クイェヤ (Ba-Kauando, Ba-Kouissé) なる種族

がある。此等はアンゴラ (Angola) 葡萄牙領植民地ベンゲエラ及びモッサメデス (Benguela, Mossamedes) 間に存在するものであるが、獨木

舟を作ることを知らず海濱に打上げられた海棲動物又は暗礁上の魚をしか捕らぬ。實は全く人類の落伍者とも稱せらるべきもので、一人の長老に導かれて放浪する家族的の諸群團に分散して生活を維持することを餘義なくせられる。

以上に述べた所を總括するに、大體、全年を通じて行はれる小海棲動物對象の沿海漁撈は常

に移動を餘義なくせられ一〇乃至一二人の家族的小群に分散する集團を形成せしめ、中位の海棲動物漁撈に於いては二〇乃至五〇人許よりなる放浪的部落が構成せられ得ると云ひ得る。

而して沿海部族の人口は一〇〇人乃至四〇〇人間を上下するものの如く而も之れは主として移動の容易さを限定する自然的障礙によつて左右せられるのである。

二、季節的放浪をなす漁撈民

北地に於いては漁撈は一年の好季節中しか行はれ得ない。而して冬籠りの間は住民は物入れの中に集蓄せられた食糧を以て生活しなければならぬ。斯くてその沿海漁撈は季節的であるが併しながら尙主要な若しくは全的な生存手段をなすのである。此の種漁撈民と前節第一種の漁撈民との唯一の相違は後者にあつては冬季生活のために食糧を貯藏しなければならぬ必要があるといふ點に存する。

グリーンランド人は此の種沿海漁撈民の最も

代表的なるものである。彼等は海豹皮の以て作つたカヤーク(Kayak)なる舟に乗り、鰯を以て海豹を獵するのであるが、之れは實は一個人の能くする仕事である。然れば男子は二十歳に達すれば充分自給自足することを得、理論的には充分獨立して仕事が出来るのであるが、實際に於いては彼等は天幕を持たなければならず、此の天幕はその地方に木材が少ない結果海豹の皮を以て製作するの外ないのであるが、之れが可なり骨仕事であり、加之難船が尠からず、その結果として生ずる多くの寡婦孤兒は、他の男子が之れを保護しなければならぬこととなり、結局家族の一團はその人口に於いてヤガン人間に於けるそれより少なくはなり得ないのである。

而してグリーンランド人間に於いては冬季の食糧問題が重要な問題となる。冬季の食糧は秋季に於ける共同作業による海豹群の包圍殺戮によつて得るのであるが此の食糧を運搬し、家財天幕女子小兒を運搬する爲めにウミアク(umiak)

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

なる大いなる獨木舟を必要とするのである。之れは一〇乃至二二人、漁撈者自身を加へると一〇乃至一六人の一群を運搬し得る様に作られて居る。かかる家族的一團が夏は各孤立して北洋沿岸を放浪するものであるが、秋に入れば四〇乃至五〇人の一團が一組となり共同作業によつて海豹を捕へ之れによつて冬季中の食糧を蓄ふるや四〇乃至五〇人の此の一群が冬の住居イグルー(Iglu)中に共同生活を營むのである。

有利なる條件の下に於いては數個のイグルーが相集つて一個の村落を構成することも不可能ではない。十八世紀グリーンランドに傳道したモラーヴ兄弟(Moravians)は數百人のグリーンランド人村を形成せしめるに成功し、而して斯かる場合に於いても冬季中の食糧は常にその共同團體の所有であつたのである。

グリーンランドに於いては居住可能な地域は海と恒久氷河との間の部分に局限せられてゐるから、其の地の獲物は比較的早くに減少し終つ

た。併しながらフォート・チャーチル及びバツルスト岬 (Fort Churchill, Cap Bathurst) 間及び其の附近の島嶼に居住するエスキモーは海豹のみによつて生活せず、馴鹿、麝香牛 (ovibos) 自熊等の狩獵によつても生活して居る。後者等の狩獵は年中陸上で行はれ得るのである。此の場合團體の連帶は自然比較的緩和せられるが、併しながら或る生産は常に共同の所有に歸し、何れにしても冬季の海豹は共同作業を以て捕へられ共同の所有に歸するのである。その群團の人口は二〇乃至五〇人であるが、時としては一〇〇人に達することがある。但し六乃至八人住みの雪の小屋に分散して生活する。

三、海棲大動物を目的とする定住的漁撈民

大動物の漁撈は人間をして定住せしめる傾向を有する。即ち之れには比較的大形の獨木舟を必要とし、大形獨木舟には都合よき避難地を必要とするからである。更にその重要な原因としては唯一個の獲物が或る一定期間の食糧を保

證する事實を數へなければならぬ。一頭の鯨がよく冬季中數家族を養ふに足ることは人の知る所である。

未開人の多くは偶然海濱に漂着する鯨のみを以て満足し、其餘は第一種の漁撈民に就いて述べた如く唯沿岸を放浪するのみであり、而して多くのものは何等貯藏の工夫をなすことをせずその偶然的僥倖をば利用せんもしないのであつて、彼等が全く未開の域を脱しないのを知るのである。

此等未開人に對して、カムチャトカ東北沿岸のオレウトール人 (Oléoutres) は灣口に大網を張り之れを以て鯨科を捕獲することを知つて居る。

又或る住民はカヤーク或ひは小獨木舟を以て五〇隻乃至一〇〇隻の小船隊を形成し、團體作業を以て鯨を捕獲するのである。アレウト人 (Aléoutes) カディアク人 (Kadiak) エスキモー人、南方カムチャダール人 (Kamtchadales) 等が之

れである。

所が此の種捕鯨は中々の危険を伴ふもので何人も之れに參加し得る譯ではない。最も勇敢にして有能なるもののみが相集つて一團を成し共同作業を以て捕獲に従事するのである。その他のものは更に小なる動物の漁撈に従事するのであるが、捕鯨者は冬季食糧の大部分を保證する關係上各部族中に於いても特權及び名譽の保持者である。兎に角鯨は冬季の食糧としては最適當のものであるから、彼等は之れを捕へて集合の生活を營み、此の生活は冬季殊に卓越する。即ち彼等は一〇〇乃至三〇〇人を容るる地下室に於いて共同生活を營むのであるが、木材の豊富に存在する場合に於いては二〇人内外を容れる家々に分散することがある。

之れ等に對してシベリア東北部に存在するチュクチュ人(Tchoukchi)は歐羅巴人のそれと類似の方法を以て捕鯨に従ふ。即ち彼等は同じく獨木舟を使用するのであるが、之れには一人の

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

舵手、六人の漕手、一人の鉤投げが乗り八人共に活動するのである。而して此等八人はなるべく各異なれる家族のものを組合はす。即ち難破の際一家全滅の災を避けんが爲めである。

而して彼等は捕鯨の一方又海馬(Horse)を獵するのでその冬季の住居は皆海馬の皮を以て作られ、之れには一世帯即ち三乃至五人を容れるのである。一世帯から一人の漕手を出すのであるが、一世帯を容れる小屋六個が相集まつて一部落が構成せられる。然れば一部落は人口約二〇乃至三〇を有することとなる。斯かる群團が數群相集つて一村落を構成することがあるが、各群團はその本來の個性を保持するため常に各相分離した區劃をなして家居するのである。而して實際に於いて一村落は人口二四乃至一〇の間を上下する。又たチュクチュ人と混血せる亞細亞エスキモー人間にあつては一村落の人口は二四乃至四四二人である。

斯かる集合の理由は廣く相互の助力を受け社

會生活を發達せしめ交易を容易にし、捕鯨作業の際なるべく多くの人員が集合し得る爲にある。

ヴァンクーヴァー島の住民たるノートカ (Nootka) 人間に於いては一八乃至二〇人乗りの獨木舟で小海豚が獵せられる。これは捕鯨に比すれば遙かに危険が少ないが、その獨木舟の製作は甚だ困難の業とせられ、ためにその組合は此の地に於いては古來祖先傳來の階級 (castes) をなして居る。彼等は獨木舟の製作術を進歩せしめ之れを以て海賊的奪掠を擅にし捕虜を以て奴隸となし、その結果人口約二千人以上に達する一大聚落を發生せしめるに至つた。

四、魚礁に集合する魚類を對象とする定住漁撈民

或る種の魚類は魚礁に群集する習性を有すること周知の如く、そのため村の定住性及び大いに對して海棲大動物と同様の作用を有する。

例へば樺太島に於いては春季鯨が群來し、夏

季はシャベルを以て之れを海岸に掬ひ得る位であり、八月には鮭及び鰯が又手づかみし得る程に群來する。而も住民は勿論此の種捕獲のみを以て満足せず、數人乗の獨木舟を操り沿海漁撈に従事し斯くして得たる魚類は之れを乾燥し冬季の食糧として貯藏するのである。その爲人口は可なり集中する。

ギリアク (Giliak) 人間に於いては一個の小屋に成員二〇人許の家族的共同團體が包括せられ、斯かる小屋が六個相集つて人口約一二〇乃至一五〇を有する一村落を構成する。此の村は昔はカール (Karl) と稱せられる一種の共產村であつたのである。

アイヌ人間に於いてはギリアク人間に於けるよりも遙かに多く日本人の影響を蒙り、その共同團體は更に變化に富む。即ち一個の小屋に一世帯しか存在しないこともあれば、その中に三〇人もの人口を有することもあり、而して村は二乃至八個の小屋を有し、平均八〇乃至一〇〇

人の人口を包有する。

アラスカ南部のトリンキット (Tlinkit) 人間にありては沿海漁撈は一〇乃至一二人乗の獨木舟を以て行はれる。即ち彼等はこの獨木舟に乗り一種の槍を以て魚礁上の鰈を刺すのである。

ヴァンクーヴァーの北方シャルロット (Reine Charlotte) 島のハイダ (Haida) 人間にありては四月の候、熊手又は一種の網 (filets plongeurs) を以て鰈を捕る。鮭は河口にわな網を張り又は二艘の獨木舟を以て入江の中に網 (filets dragueurs) を曳つて捕くる。

而してトリンキット人間に於いてもハイダ人間に於いても各家族的集團は海濱の一部分、鮭漁の入江及び魚乾場を所有し、其の集團は奴隸を合しての人口二〇乃至三〇人が相集つて村を形成するが、各集團は各々離れ々の一劃を占據する。各村は人口平均約一五〇、二ヶ村相集つて一部族をなす。而して各部族は皆戰爭用獨木舟を有するが、それは各部族の重要さに比例す

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

るのであつて、トリンキット人間に於いては四〇乃至五〇人乗、英領コロンビア沿海漁撈民間に於いては一〇〇人乗の獨木舟さへ作られる。

コロンビア河口附近のチヌーク人 (Chinook) は春鰯を捕り夏鰯魚 (esturgeon) 及び鮭を漁するため三〇人乗の獨木舟を有する。村は五乃至十五家族を容れる木造の家三十個許を包括する戰士の數は七〇乃至二一四人ばかりである。

最後に英領コロンビア及びワシントン、オレゴン兩州の沿海漁撈民は人口六〇〇許の村落をなし群居して生活して居る。

結論

以上に述べ來つた所により大體次の如きことが結論出来る様である。

沿海漁撈民の社會的組織に於いては先づ第一に其の社會を構成する要素的集團に注意を向けなければならぬ。これは労働團體であると同時に家庭的集團でもある。而して其の集團の大いさは放浪民に就いてはその使用獨木舟の大いさ

によつて左右せられ、定住民に就いては其の漁撈の性質如何によつて左右せられるのである。

此の共同團體はヤガン人間に於いては一〇乃至二〇人の成員を有し、夏季のグリーンランド人間に於いても同數の成員よりなり、チュクチュ人、ギリアク人、カチアク人、トリンキット人間にありては二〇乃至三〇人、ミンコピース人間にあつては三〇乃至四〇人の成員よりなる。

冬籠り中の共同團體の大いさは食糧獲得の共同労働團體の大いさ及びその食糧の重要性如何によつて左右せられる。チュクチュ、カチアク、トリンキット人間にあつては二〇乃至三〇人であるが、併しながら此等の家族的集團は二五乃至一五〇人よりなる冬季村落中に包含せられ相互扶助するものであることを忘れてはならぬ。グリーンランド人及び昔時のギリアク人間に於いては四〇乃至一五〇人、アレウト人間に於いては二〇〇乃至三〇〇人が冬季相集つて共同團體を構成する。

而して上述の如き第一次的要素的集團の上には部族が存在し該要素的集團はこの部族に統轄せられるが、平和的孤立的住民間にあつては部族は何等規則的な權力によつて代表せられるものではなく、而して部族の大いさはその占據する島又は海岸の大いさによつて左右せられるのみである。斯くの如くにしてグリーンランド人は昔時は三萬人（現今は一萬人にしか達しない）にも達する部族を形成してデスコ(Disco)の年市に集合したものであるが、之れに對してビーグル海峽(Beagle)南方諸島のヤガン人は僅かに三〇〇乃至四〇〇人よりなる個別的部族に細分せられて居るのである。

海岸チュクチュ人は太平洋沿岸に約一、一〇〇人、北氷洋沿岸に約一、六〇〇人存在し、其の間約一、二〇〇人に達する亞細亞エスキモーによつて多少とも分割せられて居る。

孤立存在せず比較的好戰的、少くとも自衛の必要ある住民間にあつては、その公共の權力は

更に脈絡の立つたものとなり、部族の中に階級制度が認められ、而して其の領地は必ず森或は山などの自然的障礙によつて限られて居るのを見る。かかる部族に屬するものとしてミンコピースは一五〇乃至二〇〇人、火島のヤガン人はそれよりも更に多くトリンキット人は一五〇乃至三〇〇人即ち冬季の村落一個若しくは二個の部落を形成する。勿論此のことは戦争用獨木舟の大きさによつても條件づけられるのである。

英領コロンビアの沿海漁撈民ハイダ人、ツィムシヤン (Tsimshian) セーリッシュ (Selish) 等、ワシントン州沿海漁撈民チヌーク人、オレゴン州沿海漁撈民クラマート (Klamath) 人等はあらゆる種類の豊富なる魚類を得、又完備せる軍事組織を有し、人口約六〇〇許の村落に（實際は *bourg* とも稱せらるべき所に）集合生活を營んで居る。而してその第一次的要素的集團の自治は此の集合生活の中に於いては極めて薄弱なるものとなる。

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

ヴァンクーヴァー島に於いては主として小海豚の狩獵が行はれるが、毎年此の外他の海棲動物の狩獵が行はれる關係上、自然人民は集合し一部族の人口二、〇〇〇に達して居る。

尙婚姻の問題に就いては、第一次的要素的集團に於いては他集團との間に婚が通ぜられること勿論であるが、部族に於いては通常同族婚しか行はれない。之れは部族的連帶を緊密ならしめんがためなることは勿論である。

論 餘

以上に沿海漁撈を主要なる生活手段とする諸民族に就いて述べたが、沿海漁撈民に因んで、尙漁撈を主要なる生活手段とはせぬが、季節によつて生活手段を沿海漁撈に求めるもの、即ち季節漁撈民とも稱すべきものに就いて一言しやう。

此の種の漁撈民に屬すべきものにオーストラリアの海岸住民がある。彼等は夏以外は漁撈せず冬季は狩獵に従事するのであるから、その集

合 (agglomération) の状態は夏季と冬季とにより多少趣を異にするのである。

オーストラリアの西部海岸に於いては土人は獨木舟を使用することをしないが、キング・ジョージ・サウンド (King George sound) の如き好條件の場所に於いては、土人は石又は樹皮などを用以て堰を設け干潮時魚類を捕へ、或ひは河口附近に鰯を以て魚を刺すのである。二乃至三人が一群をなして分散するが、獲物は實に豊富であるから約一〇〇人を一團とする野營が内灣附近等に營まれ得るのである。

オーストラリア東部の海岸に於いては土人は丸木舟式小舟 (pirogue d'écorce) を以て漁撈し、上述のヤガン人間に於けるが如く、父及びその息子等の世帯よりなる家族的共同團體が存在する。殊にニュー・サウス・ウェールズの南部、ポート・ステファン、ボタニー灣、ポート・ジャクソン、ブローケン灣 (Port-stphen, Botany-Bay Port-Jackson, Broken-Bay) 等には之れが

存在する。男子は單獨で獨木舟に乗り鰯を以て大魚をとり、女子は二乃至三人で獨木舟に乗り釣絲を垂れて小魚を獲るのであるが、此の外に獨木舟製作の勞働團が存在し、此れ等が相合して一共同團體の大いさを決定するのである。

クイーンズランドの一岬角ブリスバーン (Brisbane) の附近モリアトン灣 (Moreton) に於いては土人は樹皮製網を以て漁撈する。四人乃至八人の二隊に分れ之れに尙一人の少年が加はり共同作業を以て網を引くのである。又男子三〇人女子一七人子供二〇人合計六七十人よりなる部落が存在し、それが六軒の小屋に分宿する如き例が觀察されて居る。

モリアトン灣に於いては魚類の漁獲の外に海馬の獵が行はれる。海馬は大なる哺乳動物であつて、之れが捕獲には可なりの勞力が必要であるが報酬は大なるものである。その捕獲區域は大堡礁に保護せらるるサンデー岬 (Sandy) に初まりバロー・リーフ (Barrow Reef) に至る間で

ある。

此の地方には海馬の外に龜類及び魚類を産するので、海の幸は極めて豊富と云はなければならぬ。而して漁撈は單に夏ばかりではなく殆んど年中通じて行はれる所もあるので、最早やその住民は季節的漁民と稱するを得ない状態にある。

尚バタゴニア人は夏季海岸に居住するため一見沿海漁撈民の列に入るものなるかの如くも思はれるが、彼等は冬季は勿論内陸に於いて狩獵生活を営むのみならずその夏季の沿岸居住も實は陸上に於ける海豹狩獵のためであるから、本問題からは除外して考へなければならぬ。

之れを要するに季節的漁撈民の野營の人口はその地の海の幸如何により一〇乃至一〇〇の間を上下すると云へる。

譯述者言

以上は「沿海漁撈民間に於ける人口の分布」と題するホール・ドカンブの論文(註一)の概譯である。

沿海漁撈民間に於ける人口の分布

る。彼れが此の論文に引用した文獻(省略)は何れも古いデートのものばかりで、最近の材料に缺けて居る點は一讀直ちに氣の着く所で、此の點本論文の弱點として認めなければならぬが、彼れが極めて興味ある問題を捕へたことは是認せざるを得ない。本論文に縷述せられた所はよしアップ・シュー・デートのものではないにしても著者が面白い問題を提供した點に一顧の價値は充分に存在すると思ふ。筆者が本論文を紹介するの勞を敢てしたのは、本論文が人文地理の特殊問題研究に何等かの暗示を與へ得るならば幸甚との微意からである。

(昭和六年一月十日稿、昭和八年二月十六日

訂正)

註一

Paul Decamps, La Répartition de la population chez les pêcheurs côtiers (La géographie, Tome XLIV, 1925, pp. 129—138)